

橋に橋姫の神を祭るがごとし、東鑑第八に、越の白川關の明神に奉幣と有も、關守神にして、今も關戸明神として所々残りたるも有也。

〔新千載和歌集戀十三〕題しらす

二條院さぬき

こえて後物思ひけるあふ坂は關もる神やゆるさるらん

〔更科日記〕霜月の廿日、いしやまにまいる、雪うち降つ、みちのほどさへをかしき、あふ坂の關を見るにも、むかし越えしも冬ぞかしの思ひいでらるゝに、そのほどしむいとあらうふいたり、

あふ坂の關の山風吹聲は昔聞しにかはらざりけり、關寺のいかめしうつくられたるをみるにも、その折あらつくりの御かほばかりみられし折、思ひいでられて、年月の過にけるもいとあはれなり、

所在

〔令義解五軍防〕凡置關應守固者、略○中 其三關者、謂伊勢鈴鹿美濃不破、越前愛發等是也。

〔令抄〕三關國 愚謂伊勢鈴鹿關美濃不破關、越前愛發關、謂之三關國也。

〔二中歷六關路〕三關

勢多 鈴鹿 不破關

今案、勢多在近江國 鈴鹿在伊勢國 不破在美濃國 義解令云、三關者、鈴香、不破愛發也、愛發者

在越前國敦賀郡、而今以勢多爲關者、

〔拾芥抄三下關本〕三關

勢多在近江國 鈴鹿在伊勢國 不破在美濃國

〔名目抄公事〕三關會坂、鈴鹿、不破、關之時、此三關也。

〔增補下學集上地一〕文司關 奈古會關 不破關信州 徒越關在草紙 霞關武藏 刈萱關前筑